



2年に1回、ソーラーカーの世界大会がオーストラリアで開催されます。レースの内容は、北部のダーウィンから南部のアデレードまで砂漠地帯を走破するというものです。走行が許される時間は朝8時から午後5時まで。それ以外の時間は太陽が出ている限りマシンのソーラーパネルでバッテリーに充電する。太陽光のみで発電と充電を繰り返して、約5日間キャンプをしながらか3000kmの距離を走り切り、一番早く

アデレードに着いたチームが優勝となります。日本のチームでは東海大学が09年、11年に同大会で優勝し、テレビCM等でも放送されて有名かと思えます。わたしは国内のソーラーカーレース

「ワールドソーラーチャレンジ」に参加して

飯田 茂

で東海大学の教授や生徒さんたちと縁があり、また江東区でのチームメイトが東海大学のドライバートということもあり、特別アドバイザーと言う形で17年の前回大会で東海大学のチームに加わりました。レースに参戦する

にあたって不可欠なサポートトラックの運転手が不足しており、その役割を務めさせて頂きました。スタートからゴールまでの間、毎日午後5時を迎えた場所でキャンプをする。それが町中であ

ばレストランでの食事やシャワーにありつけますが、何もない所でその日のレースが終了すると大変です。トラックに積んである食材で給食班が調理をし、シャワーにも入れず、テントで寝たり、銀マット1枚だけを敷いて野宿のようなこともしなければなりません。わたしたちのチームは運悪く全日程何もない場所でのキャンプだったため、ずっと自炊してシャワーを浴びることもなく、寝床も銀マットを敷いただけ。そんな状況でゴールを目指しました。

(飯田製作所常務)